

令和 7年度
岡山県内におけるカワウ生息状況調査報告書
(コロニー営巣及びねぐら利用羽数規模調査)



日本野鳥の会岡山県支部

令和 7年 6月

も く じ

I. 目的	3
II. 調査の内容	3
III. 調査方法	3
1. 調査時期	
2. 調査場所	
3. 調査事項	
4. 繁殖状況調査（コロニー営巣規模調査） 繁殖段階の判別 調査時の調査表への観察状況表示方法	
IV. 調査結果（コロニー営巣数規模調査）	4
1. 繁殖状況調査（コロニー営巣数規模調査）	
2. 繁殖期のコロニー営巣状況	
3. 営巣コロニー15箇所内、上位5位のコロニー	
4. 各水系別 カワウ繁殖期営巣数の経年変化	
5. 各水系の主なコロニーにおける営巣数経年変化	
V. カワウ営巣数について考察	10
VI. ねぐら利用個体羽数調査	11
1. ねぐら利用個体羽数調査の方法	
2. カワウ繁殖期の個体羽数調査結果	
3. 各河川水系でのカワウ確認羽数分布割合	
4. 確認された「ねぐら場所」とその羽数の大きさ	
5. 各水系別 カワウ生息羽数 経年変化	
6. 各水系の主なねぐらにおける利用羽数の経年変化	
VII. カワウねぐら利用羽数について考察	18

岡山県内におけるカワウ生息状況調査（夏季）

I. 目的

近年、個体数・分布域が増加・拡大し、農林水産業等に被害を与えているカワウについて、生息状況を把握し、今後の鳥獣被害防止対策の適正な推進のための基礎資料とする。

II. 調査内容

県内のカワウの繁殖地（以下「コロニー」という）及びねぐらを観察し、カワウの生息状況について調査した。

III. 調査方法

1. 調査時期

夏季（4月中旬～5月下旬頃）

2. 調査場所

県内のコロニー及びねぐら

3. 調査事項

ア 繁殖状況調査（コロニー営巣数規模調査）

- ① 利用樹種、樹高等（計測可能な範囲に限る）
- ② 営巣数

イ コロニー及びねぐら利用羽数調査

- ① コロニー及びねぐら入りしている個体数
- ② コロニー及びねぐらへ帰還してくる個体数

4. 繁殖状況調査（コロニー営巣規模調査）

カワウは産卵から巣立ちまでの期間が最短でおよそ70日である。この間に調査を行えば、重複や数え漏らしなどを少なく抑えることができる。

カワウの巣のステージ（産卵後の日数）は、大まかに外見から判断することができる。

D段階、E段階のヒナ数を調査することで巣のヒナ数の推定ができる。

繁殖段階の判別

- 1： 空巣
- 2： 親 造巣行動
- 3： 親 ディスプレイ その他
- 4： 親 抱卵 親：ステージA
胸から腹をしっかりと巣に押し付け、尾羽が背に対して垂直に上に向くという典型的なポーズをとるので、判定しやすい。

抱卵日数は25～28日である。

5： 親 抱雛 …………… 親：ステージB

6： ヒナ 孵化後1週間くらいまで ……ヒナ：ステージB

ヒナが小さいうちは、抱卵と区別が難しい、餌やりを始めたころから観察していると判別はできる。孵化後47～60日で巣立つ。

7： ヒナ 孵化後3週間くらいまで……………ヒナ：ステージC

ヒナの翼の羽軸が少し出てきている。

8： ヒナ 孵化後5週間くらいまで……………ヒナ：ステージD

ヒナの翼の産毛が抜けるが、頭に産毛が残る。

9： ヒナ 巣立ち間際まで ……………ヒナ：ステージE

ヒナの身体全体から産毛がなくなる。

(繁殖状況調査用紙は資料ページに添付参照)

調査時の調査表への観察状況表示方法

① コロニーの調査では、巣の状況を観察してゆきますが、その時の親の欄には親の状況を記号化して表記してゆく。

T：巣の近くに親が立っている。

(繁殖段階ランク：2又は3)

次の3つの表示は、巣に座っている親の尾の角度や体の沈み具合で見分ける。

S：ただ座っているだけ。(繁殖段階ランク：3)

A：抱卵中(繁殖段階ランク：4又は5)

B：ランクBのヒナを抱卵中

② ヒナの欄には、上記のヒナ：ステージ表記を記載する。

③ 樹種、巣高の欄はカウントした場所が分かるように可能な範囲で記載する。

IV. 調査結果 (コロニー営巣数規模調査)

1. 繁殖状況調査 (コロニー営巣数規模調査)

上記調査を4月下旬から5月下旬の間に実施した。

県下のコロニー数は、吉井川水系で4箇所、旭川水系で4箇所、高梁川水系で5箇所、そして海岸域で2箇所 合計15箇所確認できた。そのコロニーで営巣していた巣数は759巣(去年は752巣)を確認した。(表-1)

表一1 カワウのコロニー繁殖状況調査表(令和 7年度)

吉井川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
1-1	吉井川	岡山市東区川口 中州	5月3日	109		74
1-2	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月4日	15		11
1-3	吉野川	美作市英田巨勢 位田橋下流	5月10日	3	再確認	0
1-4	肘川	勝央町福吉 切池	5月14日	32		27
吉井川 水系 小計				159		112

旭川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
2-1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	5月15日	290		344
2-2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月7日	16		9
2-3	旭川	岡山市建部町吉田 中吉橋上流	5月10日	12		5
2-4	旭川	美咲町西堺和 江与味橋上	5月23日	18		28
—	丸島新田	岡山市南区箕島 竹田下池	5月4日	0		—
旭川 水系 小計				336		386

高梁川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
3-1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池	4月21日	73		45
3-2	高梁川	総社市福谷	5月5日	32		22
3-3	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月7日	65		65
3-4	領家川	高梁市川上町領家 領家橋	5月10日	6		8
—	成羽川	高梁市備中町 新成羽川ダム	5月8日	0		26
3-5	小田川	井原市 木之子町	5月27日	49		39
高梁川 水系 小計				225		205

海岸域						
	所在	確認した場所	調査日	本年営巣数	備考	昨年巣数
4-1	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月10日	21		30
4-2	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	4月30日	18		19
海岸域及び河川以外での場所 小計				39		49

繁殖期のカワウの営巣数(コロニー15所で)				759		752
-----------------------	--	--	--	-----	--	-----

2. 繁殖期のコロニー営巣状況

吉井川水系での営巣数は159巣（昨年112巣）昨年より47巣増加している。一昨年は130巣であったのでそれよりもさらに29巣多い結果でした。旭川水系では336巣（昨年386巣）昨年より50巣減少、一昨年は361巣であったので25巣少ない結果でした。高梁川水系では225巣（昨年205巣）昨年より20巣増加、一昨年は235巣であったので10巣の減少であった。海岸域では39巣（昨年49巣）昨年より10巣減少、一昨年は91巣であったので52巣も減少している。

全県下の営巣数では759巣を確認した。昨年は752巣であったのでわずか7巣の増加に留まっていた。ただし、一昨年は817巣を確認しているので58巣の減少であった。その水系別割合を図-1に示す。

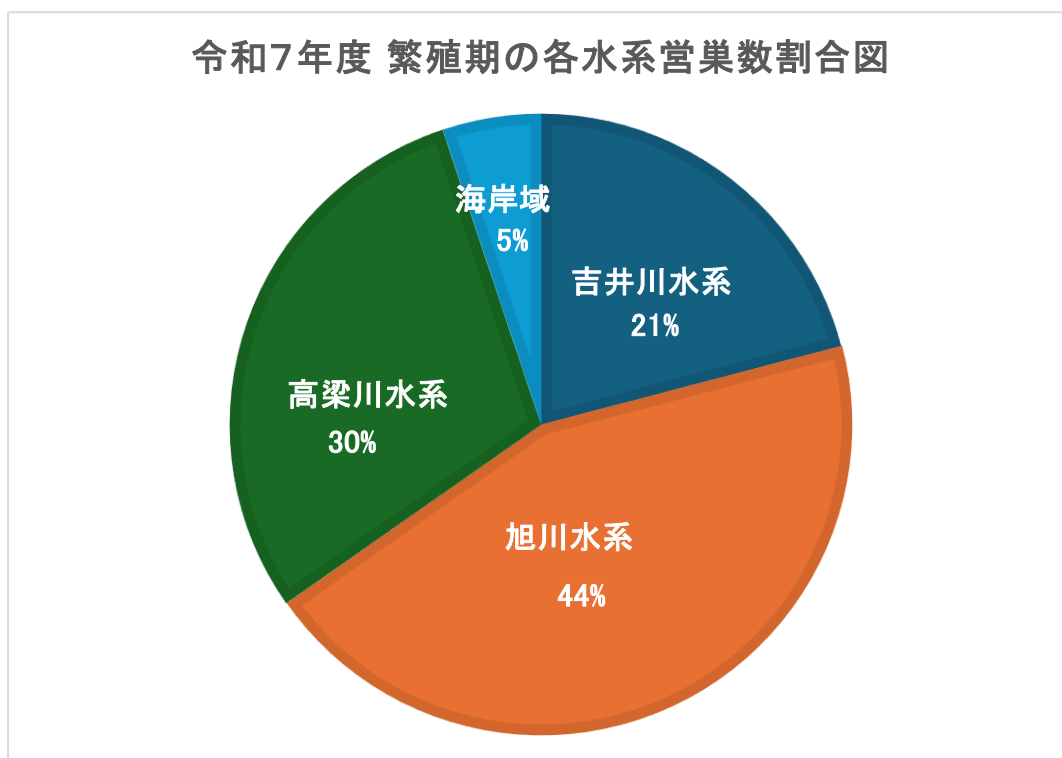


図-1 令和7年度 繁殖期の各水系におけるコロニーでの営巣数割合

表-2 直近5年間のコロニー営巣数比較表

水系名	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
吉井川	159	112	130	119	151
旭川	336	386	361	433	402
高梁川	225	205	235	223	216
海岸域	39	49	91	155	150
合計	759	752	817	930	919

県内全体的には減少傾向に見えるが、その主な減少地域は海岸域であり、吉井川水系、旭川水系、高梁川水系は、ほぼ横ばい状況である。

3. 営巣コロニー15箇所の内、上位5位のコロニー。

() 内は昨年営巣数

- ① 岡山市中区中島 旭川 三野公園前：290 巣 (344 巣：昨年 1 位)
- ② 岡山市東区川口 吉井川中州： 109 巣 (74 巣：昨年 2 位)
- ③ 倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池： 73 巣 (45 巣：昨年 4 位)
- ④ 高梁市中井町西方 高梁川山側岸边：65 巣 (65 巣：昨年 3 位)
- ⑤ 井原市木之子町 小田川岸边： 49 巣 (39 巣：昨年 5 位)

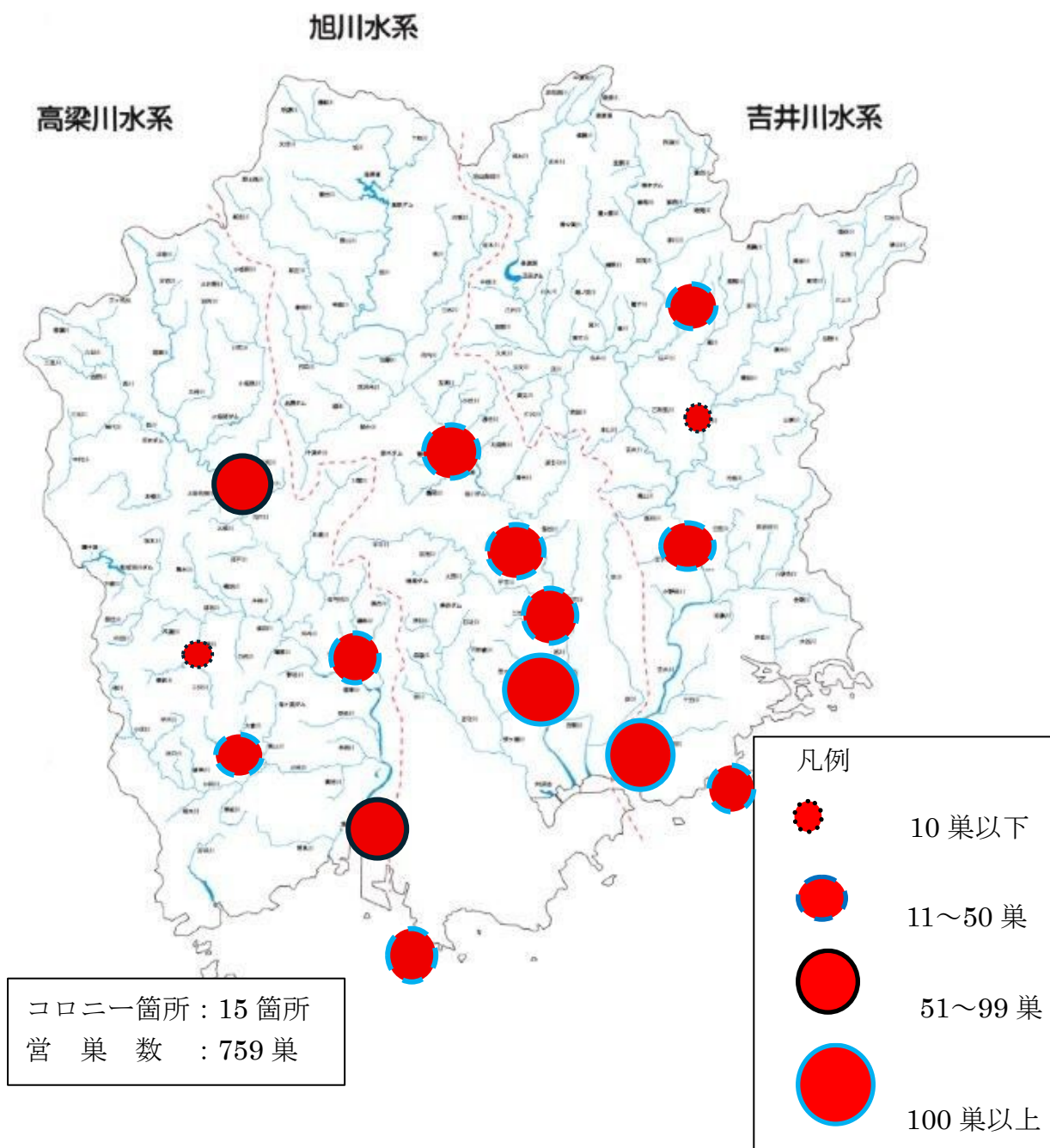
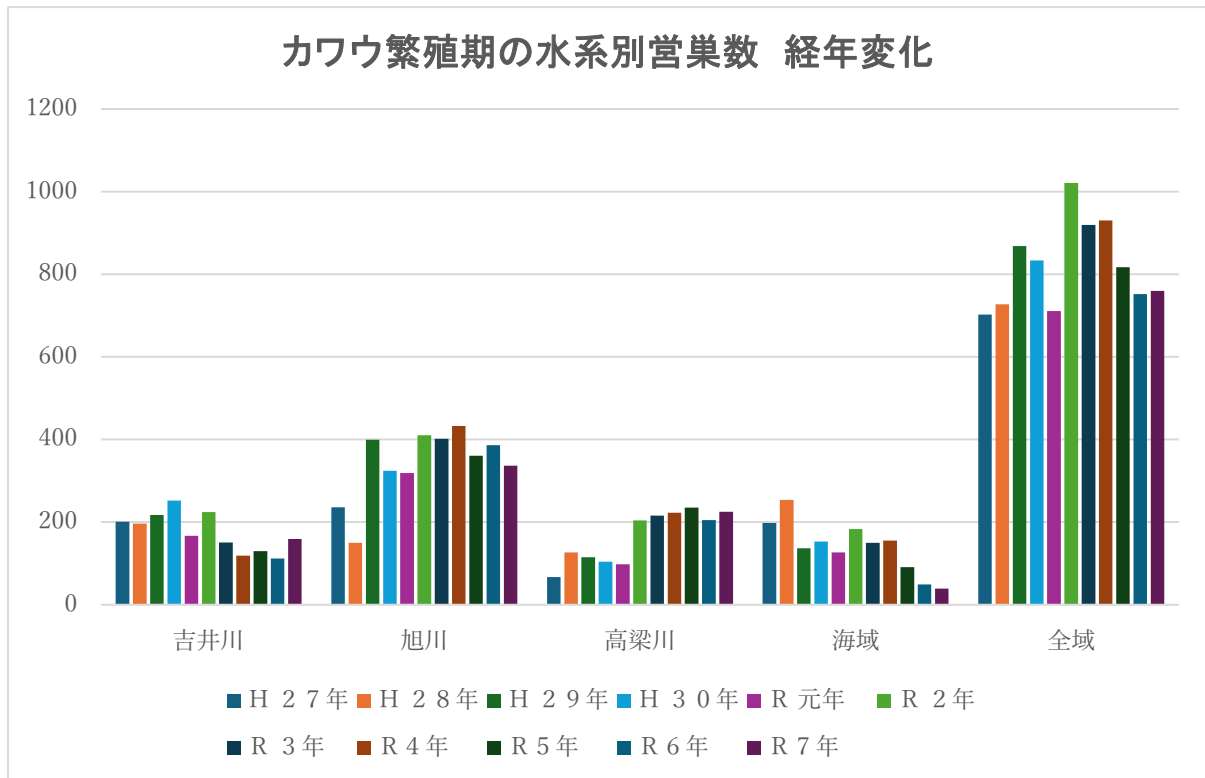


図-2 令和7年度 繁殖期のカワウ営巣場所図 (コロニー分布図)

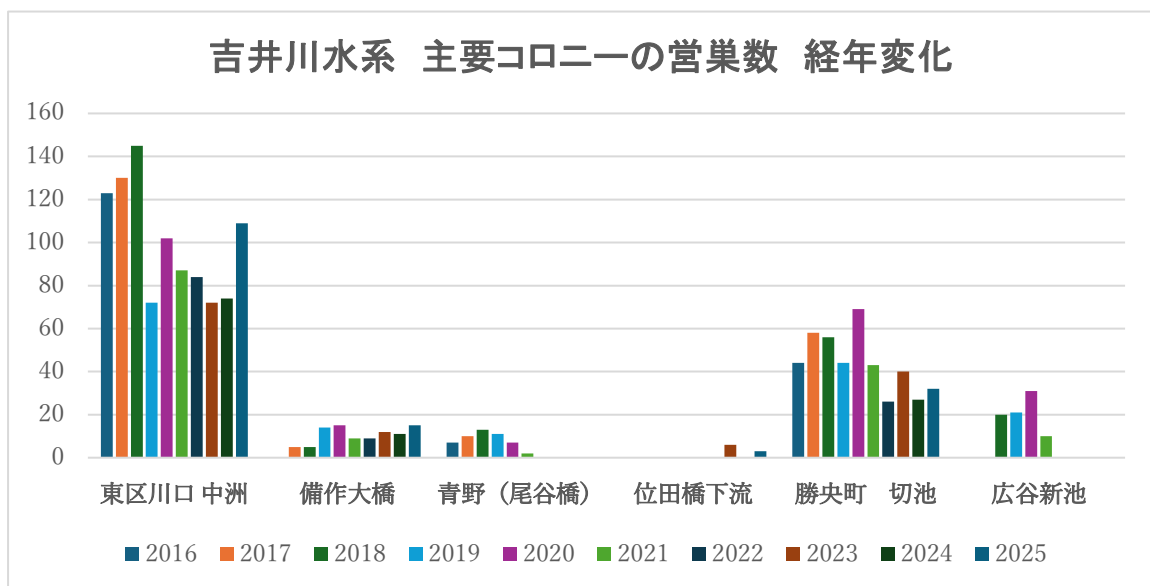
4. 各水系別 カワウ繁殖期営巣数の経年変化



図－3 カワウ繁殖期の水系別営巣数の経年変化図

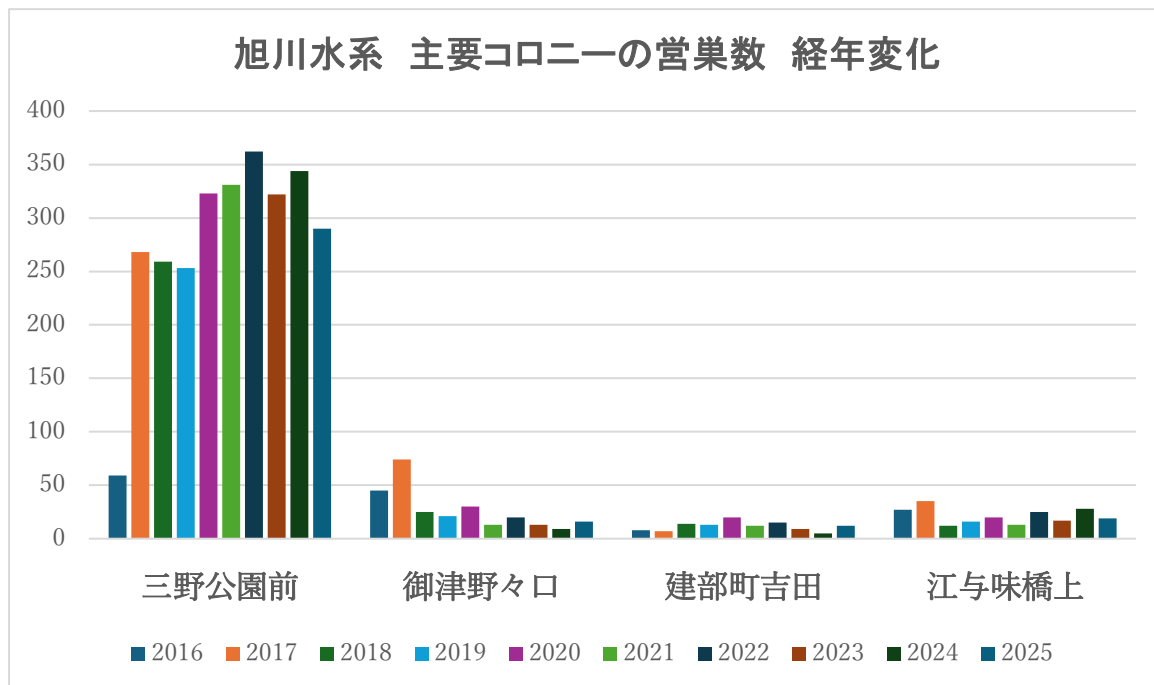
全域としては、令和2年度から減少傾向にある。特に海岸域での減少傾向が強く、他の吉井川水系や旭川水系、高梁川水系では、ほぼ横ばいで営巣数が維持されている。その中でも旭川水系が突出して営巣数が多い。

5. 各水系の主なコロニーにおける営巣数経年変化



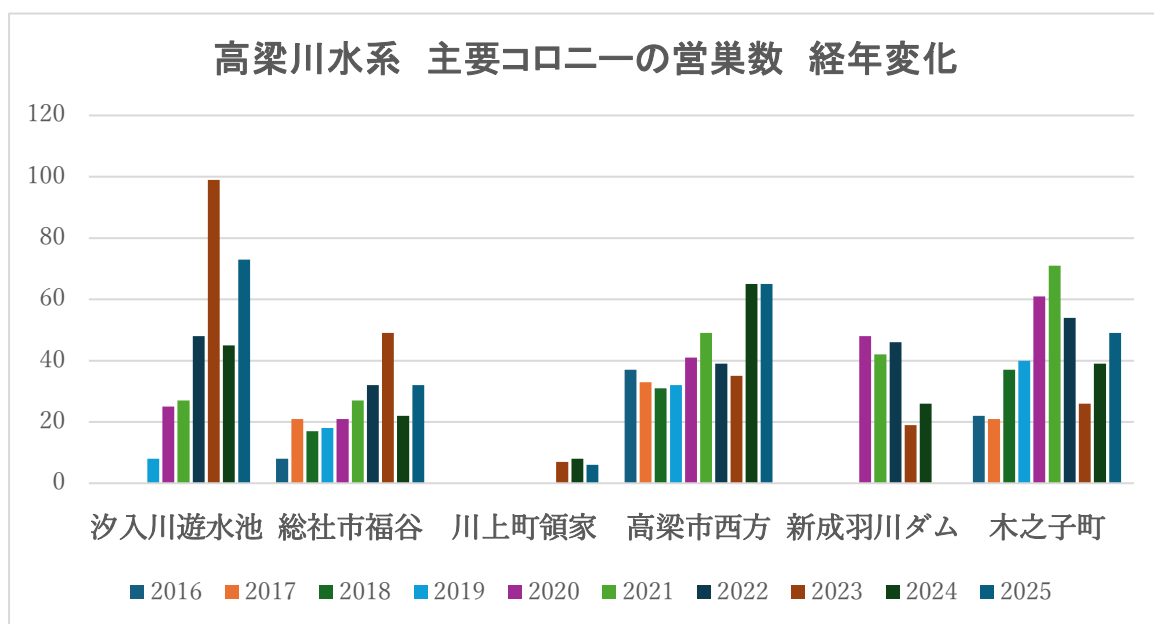
図－4 吉井川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

吉井川水系においては、岡山市東区川口の中州コロニーが長年その営巣数を維持している。また、県中北部のコロニーとして勝央町の切池が忌避テープによる阻害を行い一時は減少したものの復活傾向にある。津山市日本原の広谷新池はその後利用がない。



図－5 旭川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

旭川水系においては、県内最大の営巣数を誇る三野公園前の中州がある。御津野々口と建部町吉田のコロニーは大きくはないが長年維持されている。美咲町の江与味橋上のコロニーは県北部コロニーとして営巣数を維持している。



図－6 高梁川水系の主要コロニー営巣数 経年変化図

高梁川水系においては、汐入川遊水池が再び数を増やしている。総社市福谷は安定した数を維持している。川上町領家は3年連続して営巣確認されている。高梁市西方では、高梁川の上流部において大きな営巣数を維持している。新成羽川ダムの営巣地は今年営巣を確認できなかった。井原市木之子町の小田川のコロニーは2015年から確認されているので、ここ10年安定してその営巣数を維持している。

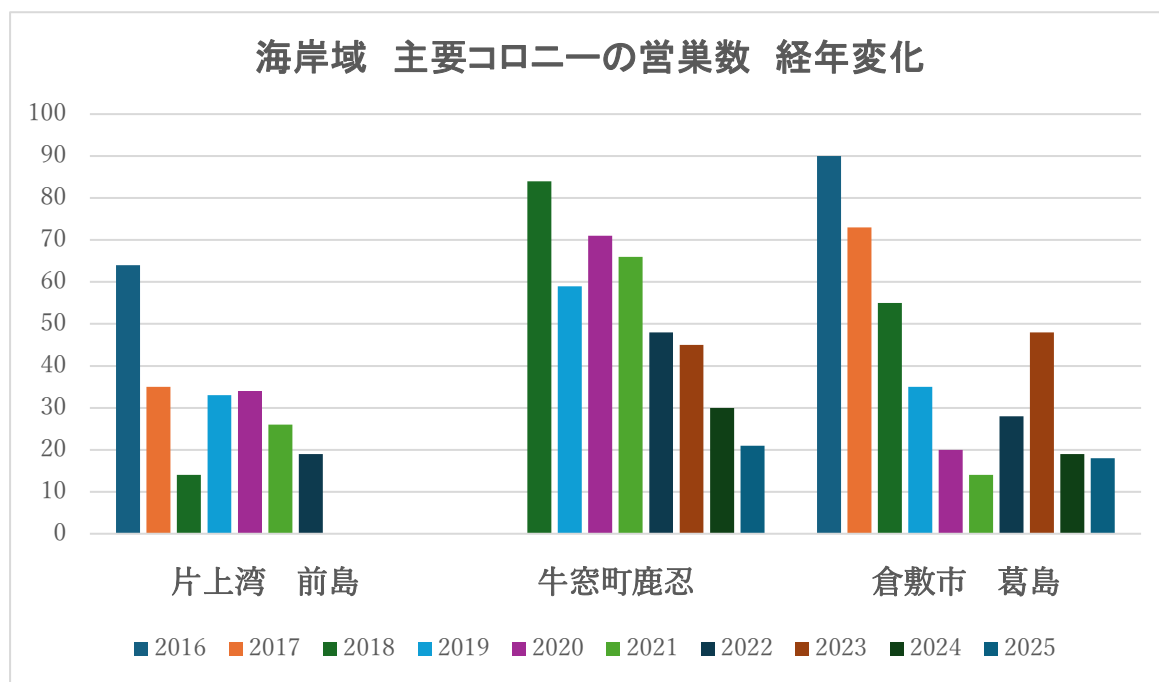


図-7 海岸域の主要コロニー営巣数 経年変化

備前市片上湾内にある前島のコロニーは2023年以降営巣が確認されていない。瀬戸内市牛窓町鹿忍の河岸にある池で営巣する数は年々減少傾向にある。池の中にある枯れ木に営巣しているが、その枯れ木が年々少なくなり巣を掛ける場所が無くなってきているのが大きな要因となっている。倉敷市水島港の入り口付近にある葛島のコロニーは増減を繰り返している。県内の島で営巣しているのは葛島だけとなっている。今後の動向を注視する必要がある。

V. カワウの営巣数について考察

岡山県内全域におけるカワウの営巣数は759巣であった。(昨年は752巣)5年前の令和2年度において、1021巣の最大巣数を確認して以来減少傾向にあるがその割合は74%に留まっている。営巣数は徐々に減少しているが、むしろ水平方向への動きが見られ、安定方向に進むとも推測できる。営巣中のヒナの数を見ても1羽から4羽のヒナを育てている巣が見られ、繁殖能力の高いカワウがいる。県南部の個体には12月の真冬でも繁殖行動に入っている個体も見られる。その中には年に2回以上産卵して子育てする個体も居る。今後の動向についても注視する必要がある。

VI. ねぐら利用個体羽数調査

1. ねぐら利用個体羽数調査の方法

カワウの繁殖期における営巣数調査とは別に事前にその所在地を調査しておいたカワウの「ねぐら及びコロニー」において、日没少し前から調査を開始した。

まず、すでに「ねぐら入り」しているカワウ個体羽数をカウントし、それに加えて、ねぐら入りしてくるカワウ個体羽数を飛来方向別に時間を区切ってカウントして記録した。調査前にすでに「ねぐら入り」していた個体羽数と新たに飛来して「ねぐら入り」した羽数を合計して総羽数とした。

2. カワウ繁殖期の個体羽数調査結果

令和7年度の岡山県内で繁殖期に生息するカワウの「ねぐら及びコロニー」は24箇所（去年は26箇所）で昨年より2箇所減っていた。個体羽数は2,549羽（去年は2,559羽）昨年とほぼ同羽数であった。その内、吉井川水系での「ねぐら場所」は8か所（去年は8か所）で個体羽数は354羽（去年は332羽）、旭川水系での「ねぐら場所」は6か所（去年は7か所）で個体羽数は1,140羽（去年は1,215羽）、高梁川水系での「ねぐら場所」は7か所（去年は8か所）で個体羽数は736羽（去年は798羽）海岸域での「ねぐら場所」は3か所（去年も3か所）で個体羽数は319羽（去年は214羽）であった。

本年度のカワウ営巣場所（コロニー）は15か所であるのに対して「ねぐら場所」として確認した場所は24か所であった。9か所はコロニーとしての利用はなく「夏ねぐら」として利用している。繁殖期における「夏ねぐら」を利用する個体は繁殖に直接関与しない若鳥の集まりと言われる。

確認羽数は2,549羽である。一方営巣数は759巣なので繁殖に関わっている個体数は1巣に♂♀2羽が関与していると考えられるので営巣に関わる羽数は 759×2 で1,518羽と推測される。これらから営巣に関与しない個体数は1,031羽と推測される。この中から2～3年経過して繁殖可能個体に成長してゆくと思われる。繁殖予備軍がまだまだ多数控えていることが伺える。

ねぐら及びコロニー中で100羽を超える大型ねぐらは7か所（去年は6か所）だった。

- ① 岡山市中区中島 三野公園前 963羽（去年は1位 962羽）
- ② 岡山市東区川口 中州 210羽（去年は2位 186羽）
- ③ 倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池 199羽（去年は3位 164羽）
- ④ 倉敷市児島通生 葛島 163羽（去年はランク外 80羽）
- ⑤ 高梁市中井町西方 156羽（去年は4位 154羽）
- ⑥ 井原市木之子町（小田川） 141羽（去年は5位 153羽）
- ⑦ 瀬戸内市牛窓町鹿忍 池 109羽（去年は6位 117羽）

次ページ 表-3に確認個体数を示す。

表-3 カワウのねぐら利用個体数調査表(令和 7年度)

吉井川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年の個体数	備考	昨年個体数
1-1	吉井川	岡山市東区川口 中州	5月3日	210		186
1-2	吉井川	和気町塩田 備作大橋下流	5月4日	44		36
1-3	吉井川	津山市瓜生原 押淵上バス停対岸	5月16日	7		8
1-4	吉井川	津山市宮尾 新錦橋上流	5月20日	8		8
1-5	吉井川	鏡野町 奥津湖 苫田大橋下流	5月21日	26		14
1-6	吉野川	美作市英田青野 尾谷橋下流	5月10日	4		21
1-7	吉野川	美作市英田巨勢 位田橋下流	5月10日	6	再復活	0
—	琵琶首川	奈義町御所野 神五郎池	5月14日	0		0
1-8	肘川	勝央町福吉 切池	5月14日	49		57
—	滝川	勝央町勝間田 荒神谷池	5月14日	0		2
吉井川水系 小計				354		332

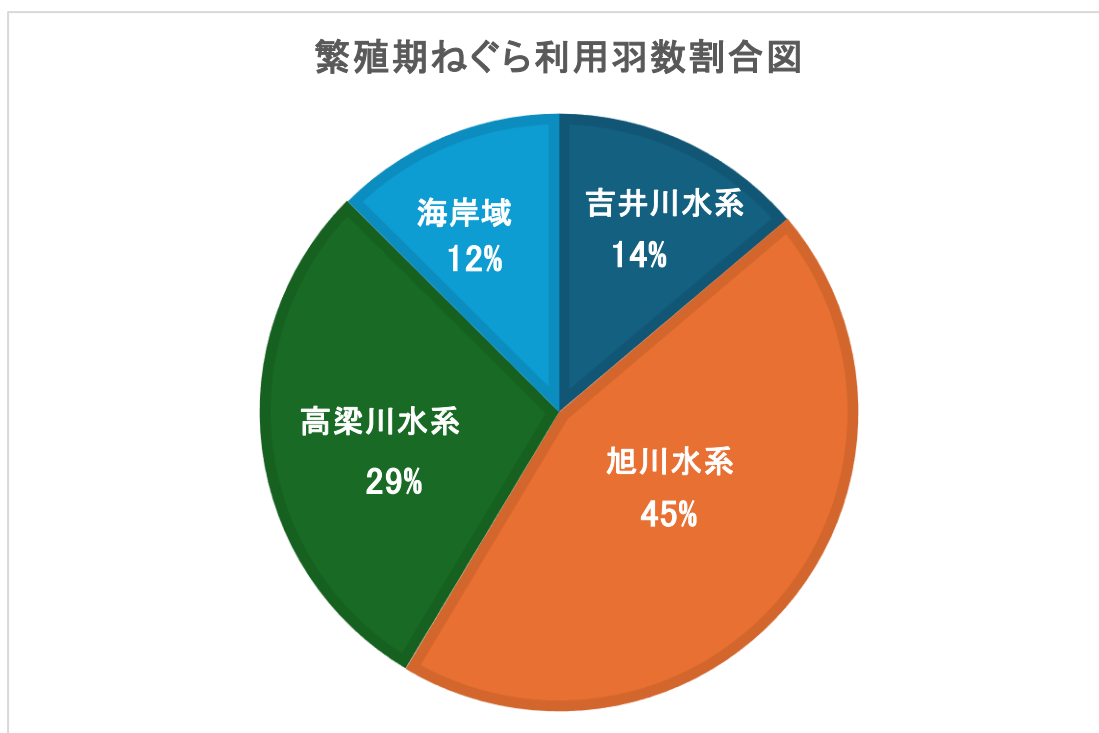
旭川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年の個体数	備考	昨年個体数
—	百間川	岡山市中区沖元 百間川河口	5月27日	0		30
2-1	旭川	岡山市中区中島 三野公園前	5月15日	963		962
2-2	旭川	岡山市北区御津野々口	5月7日	59		43
2-3	旭川	岡山市北区御津矢原	5月26日	1		23
2-4	旭川	岡山市建部町吉田 中吉橋上流	5月10日	66		61
2-5	旭川	美咲町西堺和 江与味橋上	5月23日	45		84
2-6	砂川	岡山市東区瀬戸町笹岡	5月3日	6		12
—	二井用水	赤磐市桜ヶ丘西 二井大池	5月3日	0		0
—	丸島新田	岡山市南区箕島 竹田下池	5月4日	0		0
旭川水系 小計				1140		1215

高梁川水系						
No.	河川名	確認した場所	調査日	本年の個体数	備考	昨年個体数
3-1	高梁川	倉敷市水島川崎通り汐入川遊水池	4月21日	199		164
3-2	高梁川	倉敷市酒津 八幡山 裾	5月3日	86		114
3-3	高梁川	総社市福谷	5月3日	98		95
3-4	高梁川	高梁市 中井町 西方	5月7日	156		154
3-5	領家川	高梁市川上町領家 領家橋	5月10日	18		21
—	成羽川	高梁市備中町 新成羽川ダム	5月8日	0		57
3-6	西川	新見市哲多町宮川内 河本ダム	5月25日	38		40
3-7	小田川	井原市 木之子町	5月27日	141		153
高梁川水系 小計				736		798

海岸域						
No.	所在	確認した場所	調査日	本年の個体数	備考	昨年個体数
4-1	池	瀬戸内市牛窓町鹿忍 池	5月10日	109		117
—	児島湾	岡山市南区宮浦 高島	5月6日	0		0
4-2	海岸域	倉敷市児島通生 葛島	4月30日	163		80
4-3	深山公園	玉野市田井 深山公園 中池	5月2日	47		17
海岸域及び河川以外での場所				319		214

繁殖期のカワウのねぐら数(24箇所)				2549		2559
--------------------	--	--	--	------	--	------

3. 各河川水系でのカワウ確認羽数分布割合



図－8 カワウ繁殖期のねぐら利用羽数割合図

吉井川水系：	3 5 4 羽	(昨年 3 3 2 羽)
旭川水系：	1, 1 4 0 羽	(昨年 1, 2 1 5 羽)
高梁川水系：	7 3 6 羽	(昨年 7 9 8 羽)
海岸域：	3 1 9 羽	(昨年 2 1 4 羽)
総羽数：	2, 5 4 9 羽	(昨年 2, 5 5 9 羽)

本年度の羽数は昨年度より10羽少ないだけであった。

カウント誤差を考慮しても昨年と変わらない羽数が岡山県内に生息していることになる。一昨年の羽数も2,533羽であったのでここ3年間その羽数の増減が小さな状況が続いている。

餌となる魚類の供給量が安定しているとも予測できる。

4. 確認された「ねぐら場所」とその羽数の大きさ

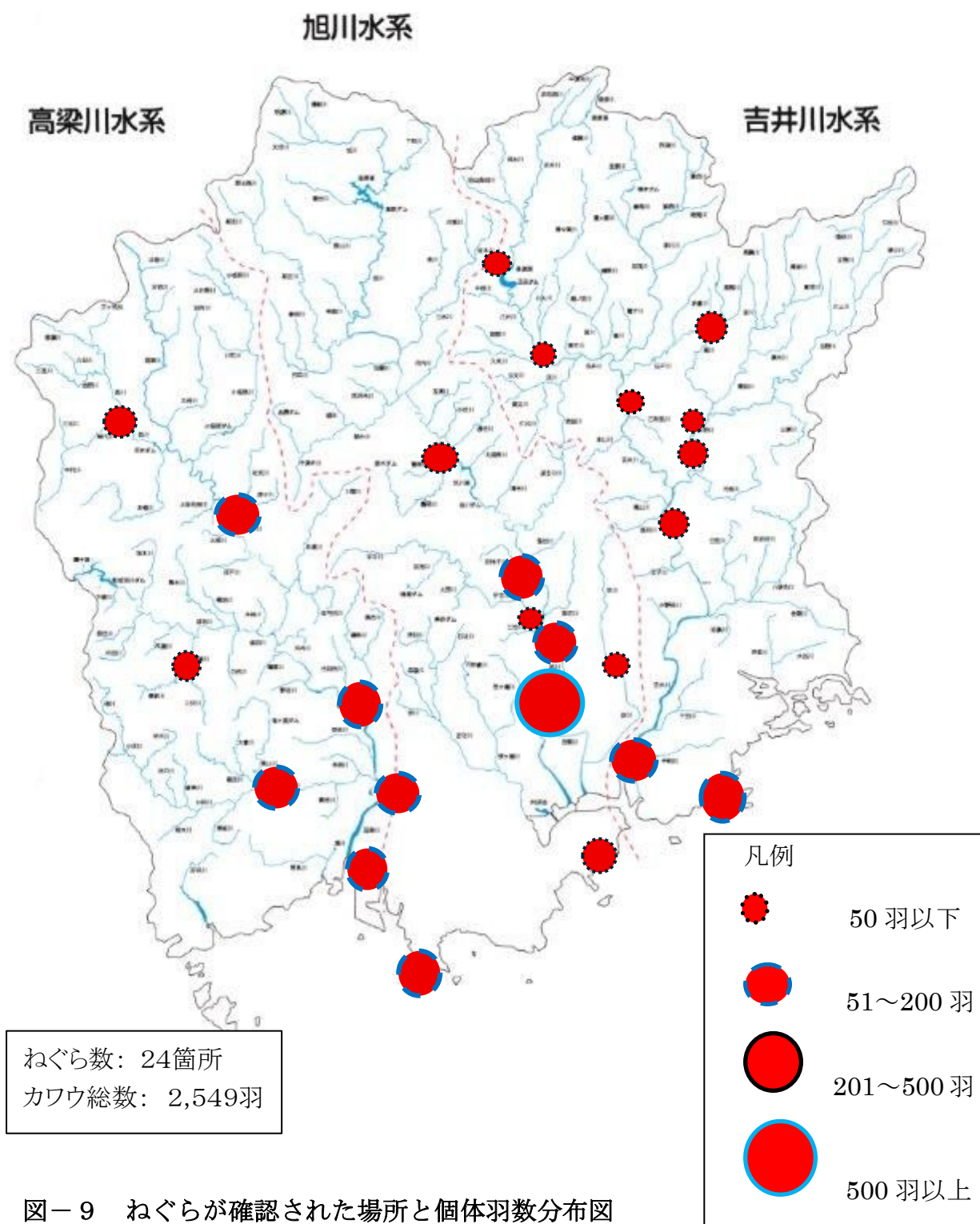


図-9 ねぐらが確認された場所と個体羽数分布図

5. 各水系別 カワウ生息羽数 経年変化

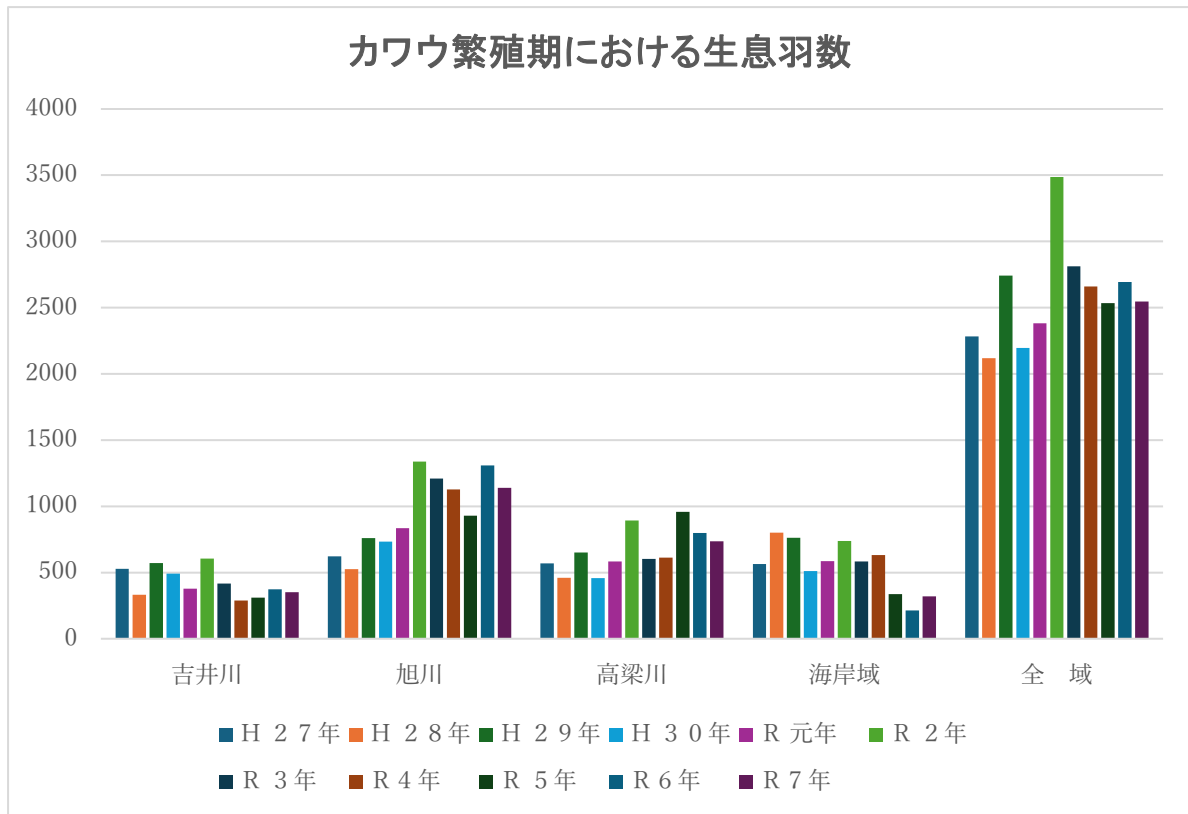


図-10 繁殖期における各河川水系のカワウ生息羽数図

今年度「ねぐら及びコロニー」として利用している場所は24箇所であった。昨年は26か所であった。荒神谷池と百間川河口、新成羽川ダムのねぐら3箇所の利用がなく、吉野川の位田橋下流が1箇所復活していた。

501羽以上の大規模なねぐらは、旭川：岡山市中区の三野公園前の中州1箇所であった。201～500羽規模のねぐらは、昨年度は無かったが本年度は、吉井川：岡山市東区川口中州にできていた。（一昨年度は高梁川：倉敷市の汐入川遊水池334羽）

規模が小さくなり51～200羽規模のねぐらは9箇所（昨年度は12箇所）あり、その内高梁川水系で5箇所も存在していた。さらに50羽以下の小規模ねぐらは12箇所（昨年度は13箇所）であった。

6. 各水系の主なねぐらにおける利用羽数の経年変化

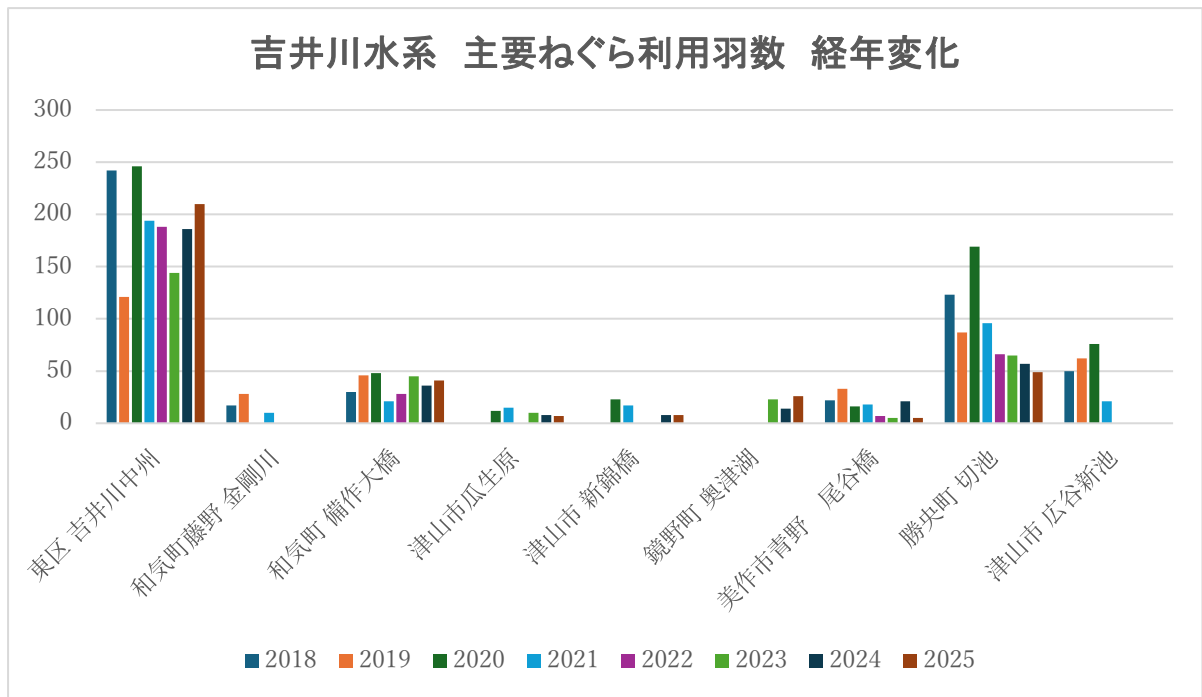


図-11 吉井川水系におけるねぐらの利用羽数図

吉井川水系においては、岡山市東区川口の吉井川中州がその羽数が最も多く続いて勝央町の切池が多かった。この8年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所ある。途中で途絶えたのは和気町藤野（金剛川）と津山市日本原の広谷新池だった。

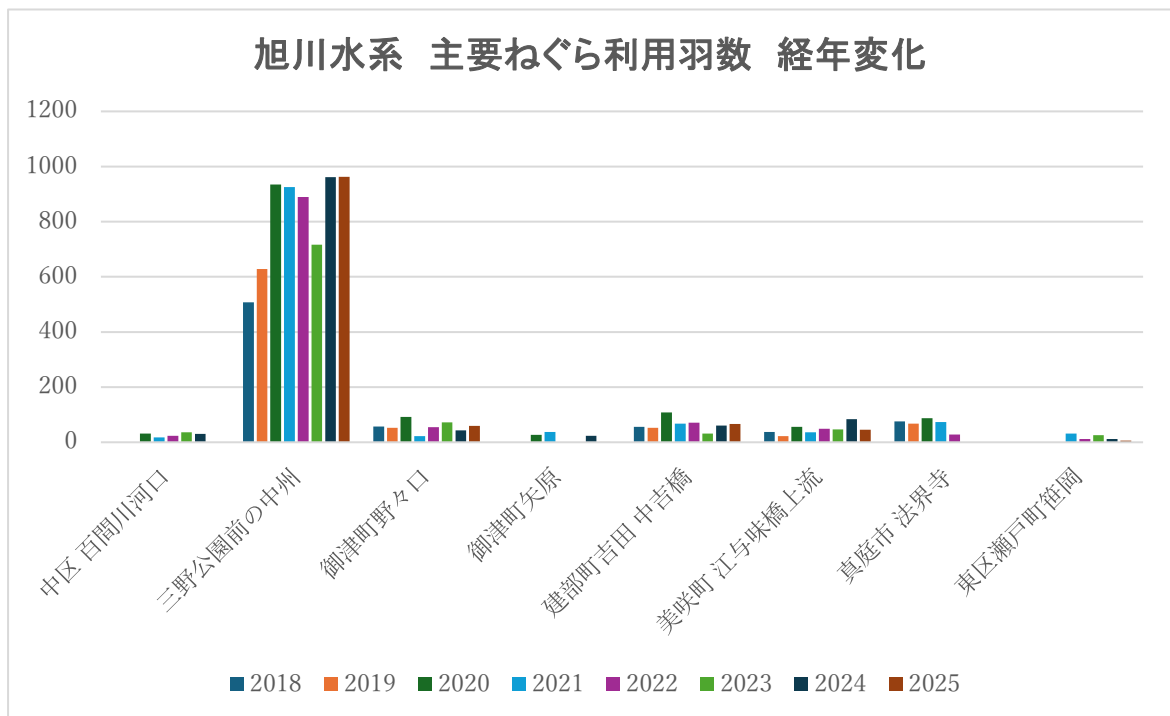


図-12 旭川水系におけるねぐらの利用羽数図

旭川水系においては、岡山市中区中島三野公園前が最も羽数が多く、続いて岡山市北区建部町吉田のコロニーが多かった。この8年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所ある。途中途絶えたのは真庭市法界寺で、ここは生息場所となっている河川岸辺の樹木と竹林の伐採が行われ生息場所が無くなったことによるものである。

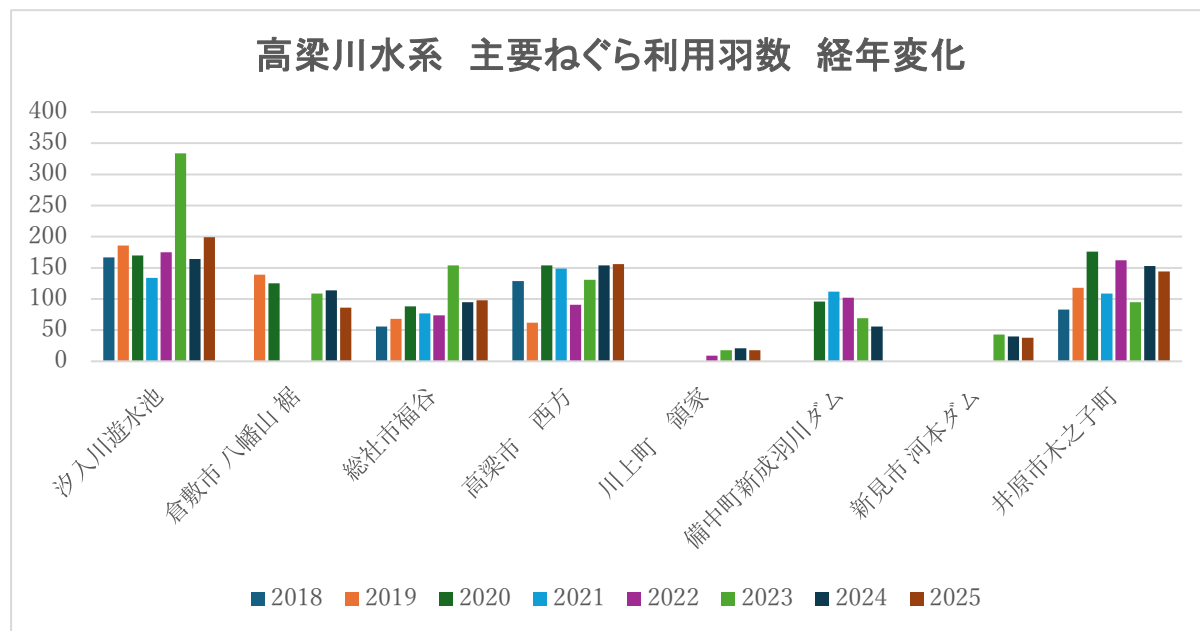


図-13 高梁川水系におけるねぐらの利用羽数図

高梁川水系においては、突出した羽数を誇るねぐらは無く、かなり分散型である。この8年間の記録の中で継続しているねぐらは4箇所あり、途中から利用が始まったねぐらは4箇所ある。

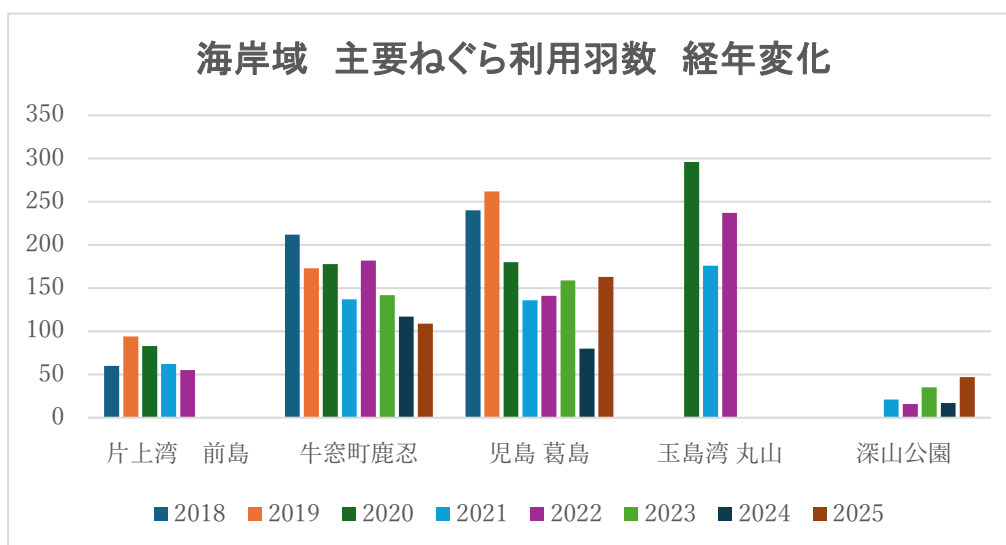


図-14 海岸域におけるねぐらの利用羽数図

海岸域においては、所在する場所がそれぞれかなり距離が離れているためお互いの影響はないと思われ、それぞれ独自の動きが見られる。この8年間の記録の中で継続しているねぐらは2箇所ある。途中で途絶えたねぐらは2箇所、新たに加わったのは1箇所である。

V. カワウねぐら利用羽数について考察

ねぐら及びコロニーをねぐら場所としているのは24箇所（去年は26箇所）あった。そこを利用する総羽数は2,549羽（去年は2,559羽）であった。

一去年は2,533羽であったので、ここ3～4年間ほどは県内に生息するカワウの羽数に大きな変化はなく安定している。（図-10）

その中で900羽以上の規模を誇る旭川の岡山市中区中島のねぐらがその存在が大きい場所である。将来的にこのねぐら及びコロニーをどのように管理していくかでカワウ管理体制が決まるのではないかと思われる。

吉井川の岡山市東区川口の中州もまた、同じような事例であると言える。ただし、旭川三野公園前のコロニーと吉井川川口の中州コロニーの違いは、吉井川の方はカワウ以外のサギ類（アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ等）も同居してコロニーを形成しており県内でも類を見ない貴重なコロニーである。

以上